



BIOBANK JAPAN

# シンポジウム

## 患者が支える バイオバンクとその未来

バイオバンクとは、一般の方々や患者の皆さん、ご家族から提供された生体試料を保管する倉庫のことで、

DNA、血清、細胞、組織など、様々な生体試料が医学研究に活かされてきています。

アメリカでは、患者団体自身がバイオバンクを運営する取り組みも始まっています。

このシンポジウムでは、アメリカの患者団体の方々に、バイオバンクに関わっていく意義やその難しさについてお聞きします。

[場所] 東京大学医科学研究所 1号館 講堂

港区白金台4-6-1 (地下鉄南北線・三田線「白金台」駅2番出口より、徒歩5分)

[日時] 2011年 11月13日(日) 13時30分～16時30分

[参加費用] 無料

[お申し込み方法] お名前とご連絡先を [pubpoli@ims.u-tokyo.ac.jp](mailto:pubpoli@ims.u-tokyo.ac.jp)

又は FAX 03-6409-2080にお送りください

13:30 開会あいさつ 武藤香織(東京大学医科学研究所准教授)

13:40 講演 アリス・ウェクスラー氏(米国・遺伝病財団・理事)

14:25 講演 シャロン・テリー氏(米国・ジエネティック・アライアンス代表)

15:05 休憩

15:20 パネルディスカッション

進行:松原洋子氏(立命館大学生存学研究センター教授)

指定発言:増井徹氏(難病研究資源バンク、独立行政法人医薬基盤研究所室長) 他

16:30 閉会(予定)

### [講演者]



アリス・ウェクスラーさん(遺伝病財団理事)

歴史学者。カリフォルニア大学研究員。

「遺伝病財団 (Hereditary Diseases Foundation)」を創設。

著書に『ウェクスラー家の選択』(新潮社、額賀淑郎・武藤香織共訳)。

シャロン・テリーさん(ジエネティック・アライアンス代表)

弾力繊維性仮性黄色腫(PXE)の研究を支援する

「PXE インターナショナル」を創設後、バイオバンクを構築。



日本語・英語・手話  
通訳有り

主催:文部科学省「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」

共催:日本人類遺伝学会、厚生労働省「希少性難治性疾患患者に関する医療の向上

及び患者支援のあり方に関する研究班」

後援:立命館大学生存学研究センター／立命館大学グローバルCOE「生存学」創成拠点